

No.136 「居武士小学校」開校100周年③
創立65周年に現校舎が完成（2016年8月号）



今からちょうど50年前の昭和41年に、居武士小学校創立50周年の記念行事が行われました。児童をはじめ保護者や卒業生など、町内外から大勢の人が出席し、半世紀の節目を盛大に祝いました。

昭和49年には、スケートによる児童の体力づくりをめざし、学校と父母たちがスケートリンク運営委員会を組織し、地域でスケートリンクの造成・運営を行い、現在のスケート指導の礎がつけられました。

昭和54年には、旧校舎の老朽化により現在の新校舎が建設され、翌年には、居武士小学校校舎落成・創立65周年記念式典が約280人の参加者により盛大に行われました。

写真Ⅱ 現居武士小学校校舎

（居武士小学校開校90周年記念誌から）

No.137 「居武士小学校」開校100周年④
現在にも引き継がれる居小の教育（2016年9月号）

昭和58年、居小では「新しい時代に生きる子どもたちには新しい目標を」と、国際社会に生きる知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな児童の育成を願い、新しい教育目標「自主的にとりくみ、深く考える子どもの育成」を重点目標に決定しました。

58年から行われている「はだし運動」や56年から児童と先生全員で食事をとる食堂方式の「給食」など、現在にも引き継がれている活動は、昭和62年に学校給食優良校として文部大臣表彰を、平成元年には健康優良校として表彰されています。さまざまな居小の教育は、着実に発展を続けています。

写真Ⅱ 居武士小学校での給食の様子



No.138 「居武士小学校」開校100周年⑤
全校児童で開基100年に花を添える（2016年10月号）



平成元年に「健康優良校」として表彰されたあと、平成2年には「学校保健体育優良校」として、日本学校体育研究連合会から全国表彰を受賞するなど、居小の教育は発展を続け、さまざまな分野で表彰を受けました。

また、平成8年の町開基100年記念事業として「NHK『げんきです北海道』」の公開録画に全校児童が出演し、「げんき体操」を行うなど、開基100年の節目の年に花を添えました。

平成10年には、建設から約20年経過した校舎の外装工事が行われ、平成12年には、食堂が新築されるなど、児童たちが快適に教育を受けることができる学校へとリニューアルされました。

写真Ⅱ居武士小学校児童による「げんき体操」

No.139 「居武士小学校」開校100周年⑥
小規模校にこそ広がる 地域の輪（2016年11月号）

居武士小学校として児童149人でスタートしてから、平成6年には児童数が69人、平成16年には48人と減少してしまいました。小規模校だからできる一人一人の子どもの特性に応じた教育や地域の方の協力による地域盆踊りや野外コンサート、農業体験活動などの授業外活動を行ってきました。

そのような地域の方をはじめ、たくさんの方に支えられ、平成18年11月26日には開校90周年を迎えました。記念式典や記念誌の発行など、居武士小学校の輝かしい歴史を感じながら、100周年に向けて大きな一歩を踏み出しました。

そして今年（※平成28年）開校100周年を迎え、11月26日に記念式典が開催され、居小100年の節目を祝います。

写真Ⅱ居小開校90周年記念式典での児童の合唱風景



No.140 「居武士小学校」開校100周年⑦
開校100周年 一年を通して祝う (2016年12月号)



開校100周年を迎えた居武士小学校。居小開校100周年記念事業協賛会などにより、さまざまな記念事業が行われてきました。

2月初旬、校歌・応援歌のCD録音や児童会企画で居小の100歳を祝う誕生日会。6月5日に、100周年記念大運動会が開かれ、日出町内会・日出実践会・大谷実践会の3地域の方がたくさん参加し、さまざまな種目で奮闘しました。運動会の後には、校舎をバックに参加者全員で記念撮影も行われました。

11月6日には、100周年記念学芸会、11月26日の「居小開校100周年記念式典」と続き、二世紀に向けて大きな一歩を踏み出しました。

写真Ⅱ居小100周年記念大運動会での記念撮影

No.141 「居武士小学校」開校100周年⑧

開校100周年記念式典挙行 一世紀を祝う（2017年1月号）

居武士小学校が開校してから、100年という歳月が流れ、11月26日に開校100周年記念式典・祝賀会が挙行されました。

大正5年に居武士教授場として誕生して以来、居小は、保護者や地域の皆さんが互いに手を取り合って、児童一人一人の育成を図る教育を行い、これまで約1,600人の卒業生を送り出してきました。

式典には児童や卒業生など約200人が出席。100周年を記念した行事のDVD上映や歴代校長、後援会長への感謝状の贈呈、全校児童による合唱などが行われ、地域とともに育みつないだ一世紀の歴史を祝い、未来への発展を祈念する一日となりました。

写真Ⅱ開校100周年記念式典での全校児童による合唱





地域コミュニティの拠点施設として、新長寿会館が1月13日にオープンしました。同日には、町内会長や老人クラブ中央長寿会の役員などが出席し、オープンセレモニーが行われました。

長寿会館は、昭和43年に町内有志の呼び掛けで、お年寄りのために会館を建設しようという声が高まり、町内の多くの方からの寄付を募り、建設されました。建築後47年が経過し、老朽化が著しい状態だったため、建て替えが行われました。

新長寿会館は、町内会や実践会の行事、小中学校のクラブ活動、趣味サークルの例会など子どもからお年寄りまで、幅広い利用が期待されます。

写真Ⅱ新長寿会館、オープンセレモニーと新長寿会館の外観（左上）

No.143 新たな史跡標示板・保存樹木看板を設置（2017年3月号）

町内には、史跡が14か所、保存樹木が13か所あります。従来から看板が設置してありましたが、木製および鉄製であり、経年による劣化が進んだため、開基120年記念事業の一環として、耐久性のあるステンレス製の看板に更新。また、史跡標示板については統廃合となった学校跡を新規に含めて看板を設置しました。

史跡には、平村エレコーク住居跡（実郷）や増田遺跡（大谷）、中ノ沢小・中学校跡（福野）など、保存樹木にはハルニレやカシワ、イチヨウ、ヨーロッパアカマツなどさまざまな樹木が登録されています。看板には、それぞれの歴史が分かる内容などが書かれていますので、文化財を巡り、町の歴史に触れてみませんか。

写真Ⅱ校門が残る中ノ沢小・中学校跡（下）とその史跡標示板（左上）



No.144 緑の大地の未来に向かって さらなる発展を（2017年4月号）

「緑丘実践会開拓一〇五年記念誌「緑の大地二〇一五」が、このほど発行されました。昭和60年に編集された開拓75年のあゆみ「緑の大地」の発行から30年が経過し、平成24年の年末総会において、緑丘が開拓100年の節目を迎えたことから、記念となる実践会内の史実の発行について意見が出され編集作業が進められました。

記念誌には、戸史や班史、地域組織、地域のあゆみなどの歴史が記されています。この記念誌の発行により、地域の歴史が受け継がれていくとともに、「緑の大地」の未来に向かってさらなる発展を続けていきます。

写真Ⅱ 緑丘実践会開拓一〇五年記念誌「緑の大地二〇一五」



No.145 訓子府町文化連盟設立10年
文化の力で豊かな生活を(2017年5月号)



平成19年に文化協会とレクリエーション協会が合併して誕生した訓子府町文化連盟が、今年設立10年を迎えました。

文化連盟は、戦後の生活が混乱している中、文化活動を通じて、心豊かな日常を送ろうと有志が集い昭和27年に立ち上げられました。昭和41年には、春と秋の年2回の文化祭を行うなど活動が最盛期を迎え、文化連盟は、「文化協会」と「レクリエーション協会」に分離独立し、相互の発展を図りました。

その後、高齢化が進み文化活動が多様化したものの各団体の会員が減少したこともあり、時代の変化に対応するため、平成19年に再度合併。両協会を合わせて42団体でスタートし、現在の文化連盟に至っています。

写真Ⅱ平成20年に行われた芸能発表

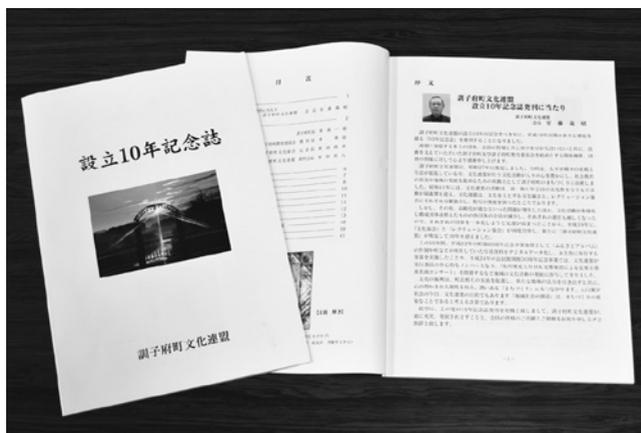
No.146 訓子府町文化連盟設立10年㊦
 地域に根差した文化活動 豊かな文化の花を咲かせる (2017年6月号)

文化連盟が10年の節目を迎え、平成29年3月に「設立10年記念誌」が発刊されました。記念誌には、設立経緯や活動経過、加盟団体と会員数、活動状況など10年間の歩みが記されています。

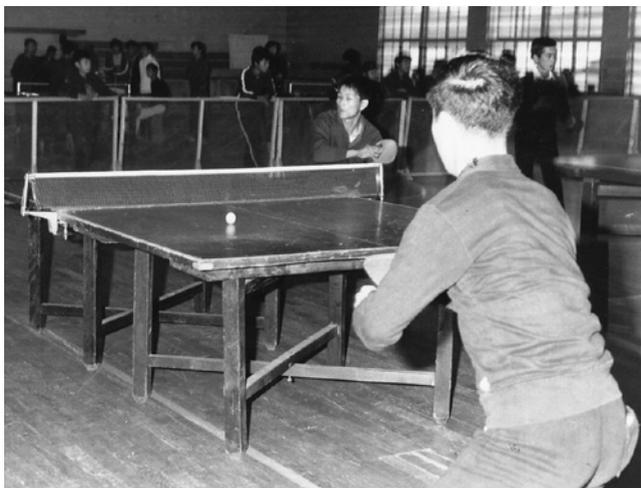
平成29年4月1日現在、40団体360人で組織されている文化連盟は、合唱や民謡、俳句、短歌、陶芸、社交ダンスなどさまざまな活動を行っています。文化の振興は、町民相互の交流を促進し、新たな地域の活力を引き出すとともに、心の豊かさや人間性を育み、潤いあるまちづくりにつながっています。

文化連盟の活動をはじめ、地域に根差した文化・芸術活動により、町における地域文化創造の芽となり、文化のまちづくりがこれからも進められていきます。

写真Ⅱ 訓子府町文化連盟の設立10年記念誌



No.147 新スポーツセンター建設に向けて①
スポーツへの関心高く、昭和53年現スポーツセンター着工（2017年7月号）



昭和52年ころ、町のスポーツ人口は、各種団体による競技スポーツや体力の維持増進、健康管理、老化防止などの日常スポーツとして著しく増加しました。

現在のスポーツセンターが建設される前は、町の室内体育施設として、町体育館と学校体育館があり、両施設とも有効に活用されてきました。町のスポーツ活動の推進母体である体育協会は、各種スポーツ事業を企画運営しており、地域のスポーツ振興への役割を果たしていました。

このような町民のスポーツへの関心の高さから、また、スポーツ活動の需要に応え、町では、開基80周年の記念事業の一環として、昭和53年を目標にスポーツセンターの建設が実現しました。

写真Ⅱ 町体育館での卓球大会の様子（訓子府町史から）

No.148 新スポーツセンター建設に向けて㊤
スポーツセンター完成 多くの方に親しまれる (2017年8月号)

昭和53年12月17日に現在のスポーツセンターが完成。同日には、スポーツセンター落成記念式典が挙行され、式典後、アリーナでは、全国大会で優勝経験をもつ妹背牛商業高校などを招待し、交歓バレーボール大会など記念試合が盛大に行われました。町では、オープン記念奨励月間を設定し、この期間中、町内会や実践会、団体などが催しを企画して、数多くの利用が進められました。バスケットボールやバレーボール、バドミントンなどが行えるアリーナや小体育室兼卓球場、トレーニング室などを備えたスポーツセンターは、さまざまなスポーツ活動を支え、子どもからお年寄りまでたくさんの方に親しまれていきました。

写真Ⅱスポーツセンター落成記念式典の様子



No.149 新スポーツセンター建設に向けて⑧
スポーツセンター閉館 利用者に感謝の気持ちを込めて (2017年9月号)



現在のスポーツセンターは、昭和53年に建設されて以来、38年間にわたって多くの利用者に親しまれてきましたが、耐震強度が低いことや施設の老朽化により、9月30日をもって閉館。平成31年4月に新スポーツセンターが誕生する予定です。

スポーツセンターの閉館に伴い、ご利用いただきました皆さんに感謝の気持ちを込めて「スポセン思い出写真展」や「落書きコーナー」の設置、個人利用の方への「無料開放」、「ソフトバレーボール大会」などの閉館事業を開催します。ぜひ多くの皆さんに参加していただき、閉館までの一日一日を記念すべき日にしましょう。

写真Ⅱスポーツセンターと「スポセン思い出写真展」
(左下)

No.150 青年団体の活動の拠点 青少年研修館①
たくさんさんの思い出が詰まった青少年研修館（2017年10月号）

昭和53年11月、青少年の学習活動・団体活動の場として青少年研修館が開館しました。開館後、昼は主に少年団、夜は青年団体と各サークルなどに多く利用されてきました。中でも、町内の青年団体である訓子府町青年団体連絡協議会は、イベントの打ち合わせや準備、4日クラブは、農業青年プロジェクトの集いの開催などに施設を活発に利用するなど青少年研修館が果たす役割は極めて大きいものとなりました。

開館以来、さまざまな団体やサークルの思い出がたくさん詰まった青少年研修館は、青年団体の活動の拠点として約40年を経てもなお大切に使われてきました。

写真Ⅱ 青少年研修館外観（昭和53年）



No.151 青年団体の活動の拠点 青少年研修館①
次世代につなぐ 輝かしい研修館の思い出(2017年11月号)



施設の老朽化に伴い、10月に解体された青少年研修館。10月5日には、青少年研修館閉館式が行われ、訓青協や4日クラブのOB、現会員など約40人が見納めとなる研修館に集まりました。

閉館式では、各青年団代表が研修館へ感謝の気持ちを述べ、また、OBらは研修館で過ごした思い出を語るとともに、現会員に対して「この研修所で出会った仲間や活動してきたことなどは財産だと思う。ぜひ、次世代に伝えてほしい」など、これからの活動に期待を寄せて言葉を贈りました。

39年間という長い間、青少年たちの活動を支えた青少年研修館。輝かしい思い出は、次の世代へつながれていきます。

写真Ⅱ 青少年研修館解体前の9月に青年たちが集い開かれた「ありがとうパーティー」

No.152 活力あるまちづくりをめざして

「青年サミット・イン・訓子府」を開催（2017年12月号）

今から25年前の平成4年11月4日に、次世代を担う青年たちが、これからの地域づくりの起爆剤にしようと、当時の国土庁の職員を招いて「活力あるまちづくり青年サミット・イン・訓子府」を開催しました。

青年サミットでは、これからの訓子府農業の展望や商店街の活性化、訓子府の知名度をどのようにして全国的に広めていくかなど、青年から活発な意見が出され、また、国土庁職員からは「地域づくりは、地域に住む住民の意欲と努力が大きい。地域で知恵をしぼり、活動することに対し、国として支援していきたい」と提言がありました。

青年サミットで語り合った青年たちの熱意は、25年の月日が経つ今もなお、現在の訓子府のまちづくりに受け継がれています。

写真Ⅱ「青年サミット・イン・訓子府」交流会の様子



No.153 「きらきら本舗」で行う配食サービスの取り組み①
安全で安心な食事を配達（2018年1月号）



単身高齢者や単身障がい者を対象に配食を行う「配食サービス」について紹介します。

平成20年4月から始まった「配食サービス」は、特定非営利活動法人福祉サポート「きらきら本舗」が町から委託を受けて行っています。現在、利用者は町内会から実践会まで約30件。月・水・金曜日の夕食時に職員8人が配食を行います。業務としては、献立の作成や食事の調理、配達、回収を行います、また、配食時には利用者の方と直接会って、安否確認も実施します。献立については、職員が調理師免許を取得しており、カロリー計算や減塩のほか、冷凍食品を使わずにすべて手作りのものを使うなど、心を込めて、安全で安心な食事を届けています。

写真Ⅱお年寄りなどのために心を込めて調理しています

No.154 「きらきら本舗」で行う配食サービスの取り組み④
利用者のために心を込めて（2018年2月号）

「配食サービス」を約10年間続けている中で、利用者の方から「配食サービスがあるから単身でも暮らしていける。この事業があつて良かった」などの感謝の声があつたり、配達の際に利用者が倒れているところを発見する場面もあり、高齢者の見守りとしての活躍も大きく期待されています。

このほか、中学校の特別支援学級の生徒受け入れを行っており、年4回、現場実習として一緒に調理をするなど、生徒の進路の手助けも行っています。これからは、利用者を増やしながら職員の技術向上をめざし、利用者のために心を込めたサービスを展開していきます。

写真Ⅱ利用者から感謝の声があがっている配食サービス



No.155 「訓子府町青年団体連絡協議会」 設立70周年①
若者の力で活力を 地域再建に立ち上がる (2018年3月号)



訓子府町青年団体連絡協議会が、昭和21年に設立されてから平成28年で70周年を迎えました。訓青協は、戦後復興のため訓子府村に活力を取り戻そうと青年たちが立ち上がり、農家や市街地、農協、役場を中心に訓子府村青年団として結成されたことが始まりです。

日本中が貧しい中でも青年たちは、弁論大会や相撲大会、陸上競技大会などを盛んに開催しました。昭和53年には活動の場である青少年研修館が建設され、より一層活動が活発化しました。昭和55年2月には、さむさむまつりが訓青協の呼び掛けにより実施。商工会青年部や太鼓同好会、青年学級などが賛同し、翌年から恒例行事となりました。

地域再建に立ち上がり、努力を続けてきた若者の活発な活動は今もなお、現在に受け継がれています。

写真Ⅱ 訓青協の呼び掛けで開催された第1回さむさむまつり (昭和55年)

No.156 「訓子府町青年団体連絡協議会」 設立70周年
活躍する青年 未来へ新たな一歩（2018年4月号）

70周年を迎えた訓子府町青年団体連絡協議会は、「70周年記念誌」を発刊することとなりました。平成9年に編集された「50周年記念誌」の発刊から20年が経過し、訓青協が創立70周年を迎えたことから、編集作業が進められてきました。

記念誌には、訓青協のあゆみや歴代会長の訓青協に対する思いなどが記されています。現在、町内の青年約30人が所属し、ふるさとまつりやさむさむまつりをはじめ町内のイベントに参加しているほか、芸術活動として合唱に取り組み、全国大会への切符を手にするなど輝かしい成績を残し、若者の力が町に活力を与えており、これからの未来へのさらなる発展が期待されます。

写真Ⅱ 訓青協創立70周年記念事業実行委員会のメンバー



No.157 「訓子府町商工会」創立60年①
訓子府の商工業を支え60年（2018年5月号）



訓子府町商工会の通常総会が、5月17日に開かれます。総会は第60回目となり、商工会が創立60年目に入ります。

訓子府の商業などは、明治40年に雑貨店が1軒開店したことが始まりで、大正7年に雑貨商組合が発足し、後に商交組合と名称を変え、昭和15年に商業組合法により商交組合が再発足。同22年に商業協同組合が組織されたが、2年後に解散。同25年に再度商交会が組織され、続いて組織された工業組合と同34年に合併し、任意商工会、さらに翌35年に「商工会の組織等に関する法律」により法制商工会として157人の会員で創立されました。

商工業の発展へ同45年に拠点施設「商工会館」が完成しました。

写真Ⅱ昭和45年に完成した商工会館（平成22年4月撮影）

No.158 「訓子府町商工会」創立60年②
まつりでも商工業、町全体を盛り上げ（2018年6月号）

「商工会は、法律（商工会法）に基づき、町村に設立された公的団体で、町内の商工業振興のため、さまざまな活動が行われています。年末年始の大売り出しや優良従業員表彰、さらに販売促進や消費者還元の一環として昭和38年に「シール店会」が発足、平成3年からは「メロンスタンブ会」として現在も事業展開しています。

また商工業を中心に町全体を盛り上げようと、商工祭りを開催、昭和40年からは「夏まつり」、同52年から「くんねっぶ夏まつり」と称し、同55年から関係団体が実行委員会を組織し「ふるさとまつり」として開催。訓子府の夏の一大イベントに定着し、毎年町内外から多くの方が訪れ、町の活性化につながっています。

写真Ⅱ 開基80周年記念協賛仮装パレード（昭和52年）

